

第32回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本ルールについては、ぜひ当社ホームページ「会社概要」に記載いたしました書籍等でご確認下さい。

2007年 7月 25日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

分析前に前提条件(事実のみ)をリストアップしておこう

発生した事象を絞り込んで分析するほうが、より緻密で、かつ深い分析ができることは、拙著でも説明していますが、その絞り込んだ事象に対する分析をさらに限定された範囲内で行うためには、分析前に前提条件を確認し、リストアップしておくといよいでしょう。

例えば、「Aさんに間違った薬を投与した」に対する「なぜ」(要因)を考える場合、事前に以下のような前提条件をリストアップしておくことによって、その部分の「なぜ」(要因)を排除することができます。

- ・ 薬びんに明示された薬名と、薬びんの中味は同じものだった
- ・ 投与した時間は、間違えていなかった
- ・ 投与した看護師は、Aさんの担当の人だった

ただし、くれぐれも確実に事実と確認できたもののみ、リストアップするようにしてください。もし厳密に分析していく場合は、あやふやな事柄に対しあたかも事実であるかのように誤認しないためにも、どのようにしてその前提条件を設定したのかについて、記述しておくのもよいでしょう。

また、リストアップするものは、要因として除外できるものに限るべきです。(つまり、問題がなかった事柄に限るということ)

なぜならば、最初に問題があるものをリストアップしてしまうと、「犯人は、これだ！」という具合に、早々に原因を決めつけてしまい、他の要因を探し出すのを妨げてしまい、発生作業や発生個所について、原理・原則的な見方ができなくなってしまう恐れがあるからです。

例えば、この事例の場合、

- ・ 投与した看護師は、Aさんの担当の人ではなかった

などと最初にリストアップしてしまうと、「Aさんの担当ではなかった」から離れられなくなり、まさに脇役の刑事のごとく、「そいつだ！」になりかねません。

ですから、最初に要因にはなりえない事柄だけをリストアップして、要因を追い込んでいく形で進めていきましょう。

以上

もし具体的な事例の「なぜなぜ分析」の指導をご希望される方は、遠慮なくご相談下さい。

また、分析を実施していきながら、会社の仕組みや組織を活性化させたいとお考えの方も、ぜひご相談ください。皆様方のお声をお待ち申し上げます。